

2022年11月

動物実験に使用する培養細胞の取扱いについて

1. 培養細胞実験にあたり

動物実験の再現性を担保するためには、適切な微生物学的統御が必要である。そのためには、動物だけでなく動物実験に使用する培養細胞及び細胞塊等の微生物学的統御も適切に行う必要がある。よって、西宮病態モデル研究センター（以下「病態研」という）で培養細胞及び細胞塊等を移植する場合には、微生物学的環境維持のため以下について確認すること。

2. 病態研に持ち込む培養細胞等は、次の項目が全て陰性であること。

(1-1) マウス・ラットで継代された細胞等の場合

マウスで継代された細胞等の場合（*Mycoplasma pulmonis*, *Clostridium piliforme* (Tyzzer 菌), Sendai virus, Ectromelia virus, LCMV, Mouse hepatitis virus) が非感染であること

ラットで継代された細胞等の場合（*Mycoplasma pulmonis*, *Clostridium piliforme* (Tyzzer 菌), Sendai virus, Hantavirus, Sialodacryoadenitis virus) が非感染であること

(1-2) マウス・ラット以外で継代された株化細胞等の場合

Mycoplasma spp. (*M. pulmonis*を含む)に非感染であること

(1-3) 患者由来の細胞等の場合

Hepatitis B virus (HBV), Hepatitis C virus (HCV), Human Immunodeficiency virus (HIV-1), Human T-lymphotropic virus (HTLV-1), *Treponema pallidum* (梅毒) が非感染性であること。

3. 検査費用は受益者負担とする

4. 病態研に培養細胞等を持ち込む前に当該検査項目の陰性証明を提出のこと。

5. マウス・ラット以外で継代された細胞等を使用する場合は、別途西宮病態研センター長と相談すること

6. 当該検査項目陽性の培養細胞等の対処方法を下記の通り定める

(1) 病態研への陽性培養細胞等の持込みを禁止する

(2) 細胞を再購入、または冷凍保管していた細胞を再培養する場合、改めて微生物検査を行うこと

(3) 抗生物質等で除染処理した場合、再度微生物モニタリングを行い、陰性になってから微生物検査結果と除染履歴を提出し、西宮病態研センター長と相談すること

細胞等の検査先（西宮病態モデル研究センター管理室が仲介）

ICLAS モニタリングセンター

細胞・腫瘍株の微生物検査

URL <https://www.iclasmonic.jp/microbiology/inspection/cell.html>

【PSB (PCR Sets for Biological Materials)】 価格：20,000円

		M-PSB (マウス)	R-PSB (ラット)
PCR	<i>Clostridium piliforme</i> (Tyzzer菌)	■	■
	<i>Mycoplasma pulmonis</i>	■	■
	Sendai virus	■	■
	Ectromelia virus	■	
	LCM virus	■	
	Mouse hepatitis virus	■	
	Hantavirus		■
	Sialodacryoadenitis virus (SDAV)		■

※アカデミア価格はすべて20%引きとなります。

※記載されている検査項目は全て、単項目でのご依頼が可能です

(M-PSB及びR-PSB項目を単項目で希望された場合の価格は原則4,000円/項目)。

【H-PSB (細胞検査用ヒト病原体項目)】 価格：20,000円

PCR	Hepatitis B virus (HBV)
	Hepatitis C virus (HCV)
	Human Immunodeficiency virus 1 (HIV-1)
	Human T-lymphotropic virus 1 (HTLV-1)
	<i>Treponema pallidum</i> (梅毒菌)

※アカデミア価格はすべて20%引きとなります。

※記載されている検査項目は全て、単項目でのご依頼が可能です

(H-PSB項目を単項目で希望された場合の価格は原則4,500円/項目)。